

資料2 アンケート調査等概要

平成21年10月1日に春日町と合併により、これまでそれぞれの策定委員会等で協議されていた内容を一体化させ、「清須市次世代育成支援行動計画」として策定しました。

旧市町の住民の声を新市に引きつぐため、合併前までに、それぞれの自治体で実施してきたアンケート調査等の調査概要を掲載します。

清須地区 アンケート調査等概要

1 子育て支援に関するアンケート調査（概要）

清須市では「清須市次世代育成支援対策推進行動計画〈後期〉」の策定のため、アンケート調査を実施しました。調査結果から抜粋し、その概要をまとめました。

【調査の概要】

調査対象：乳幼児（0～5歳）の保護者から2,000人（回収；1,090人）

小学生（1～6年）の保護者から1,500人（回収；794人）

中学生（1～3年）の保護者から500人（回収；256人）

合計4,000人を無作為に抽出（回収；2,140人）

調査期間：平成20年12月に発送し、平成21年1月まで実施しました。

調査方法：調査票による本人記入方式 郵送配布・回収

回収率：全体53.5%

1) 保護者（母親）の就労状況からみる保育サービスの潜在ニーズ

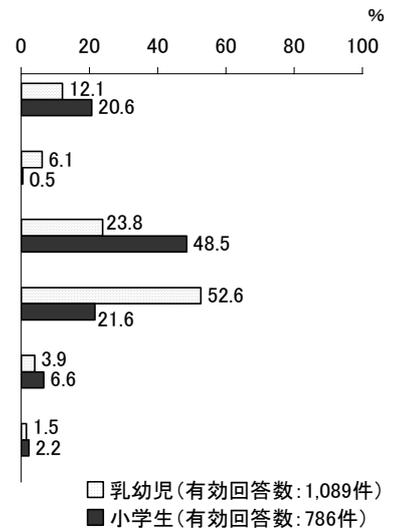
母親の就労状況を見ると、乳幼児の母親の約6割、小学生の母親の約3割が現在未就労の状況です。

また、現在未就労の方の中で、今後の就労意向については、乳幼児の母親では約8割、小学生の母親では約7割が今後の就労を希望しています。

しかし、就労希望がありながら現在働いていない理由については、乳幼児、小学生の母親ともに、「働きながら子育てができる適当な仕事がない」の割合が3割以上と他の理由に比べて高くなっており、短時間労働やフレックス制など子育てしながら働きやすい就労の場の確保が困難であることがうかがえます。

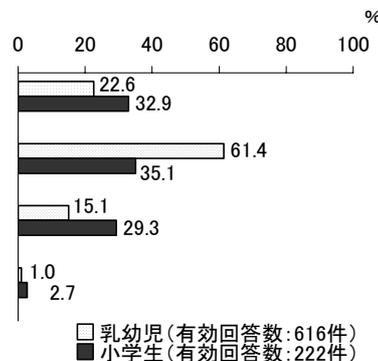
【母親の就労状況】

就労している
(フルタイム:産休・育休・介護休業中は含まない)
就労している
(フルタイムだが産休・育休・介護休業中)
就労している(パートタイム、アルバイト等)
以前は就労していたが、現在は就労していない
これまでに就労したことがない
無回答



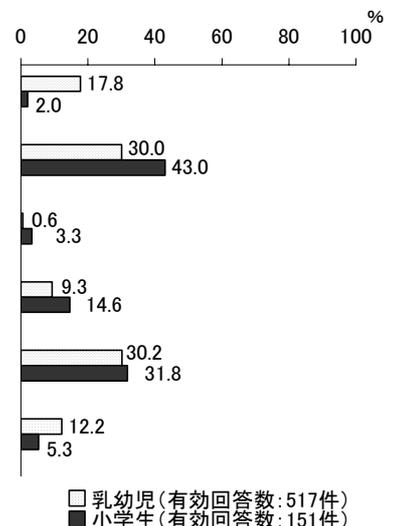
【今後の就労意向】

思っている
(すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい)
思っている
思っていない
無回答



【現在働いていない理由】

保育サービスや放課後児童クラブなどが利用できれば就労したい
働きながら子育てできる適当な仕事がない
自分の知識、能力にあう仕事がない
家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない
その他
無回答

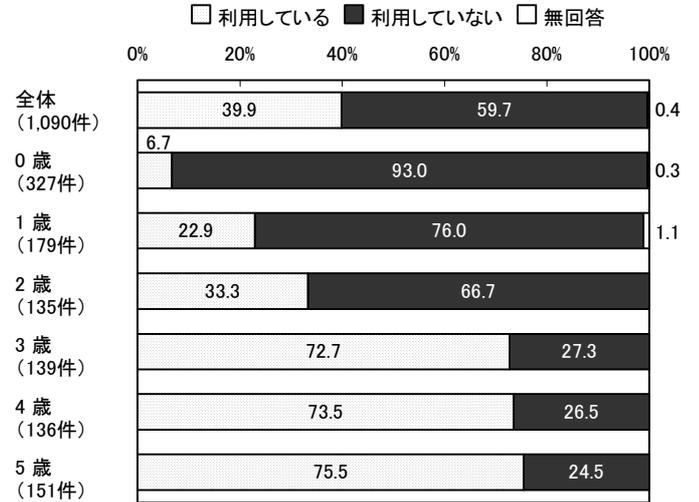


2) 現在の保育サービスの利用状況について

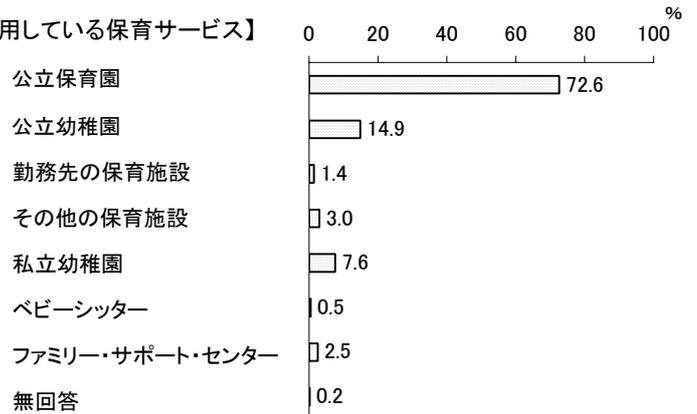
今回のアンケート調査結果で、定期的に保育サービスを利用しているかについて、「利用している」との回答があった家庭は約4割となっています。利用している保育サービスの種類をみると、公立保育園が7割以上となっています。

年齢構成でみると、2歳までは3割程度であった保育サービスの利用が、3歳以上では7割の児童がいずれかの保育サービスを利用していることがわかり、その保育サービスの種類の内訳をみると公立保育園の利用割合が最も高く、次いで公立幼稚園が高くなっています。

【保育サービスの利用状況】



【利用している保育サービス】



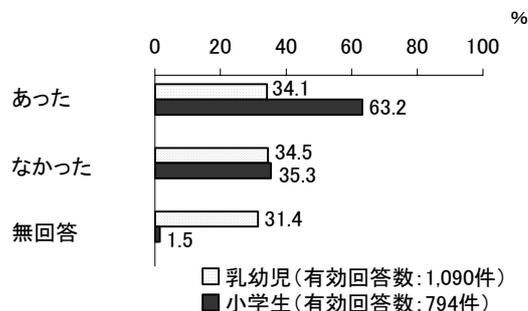
有効回答数: 435件

3) 病後児保育の利用意向について

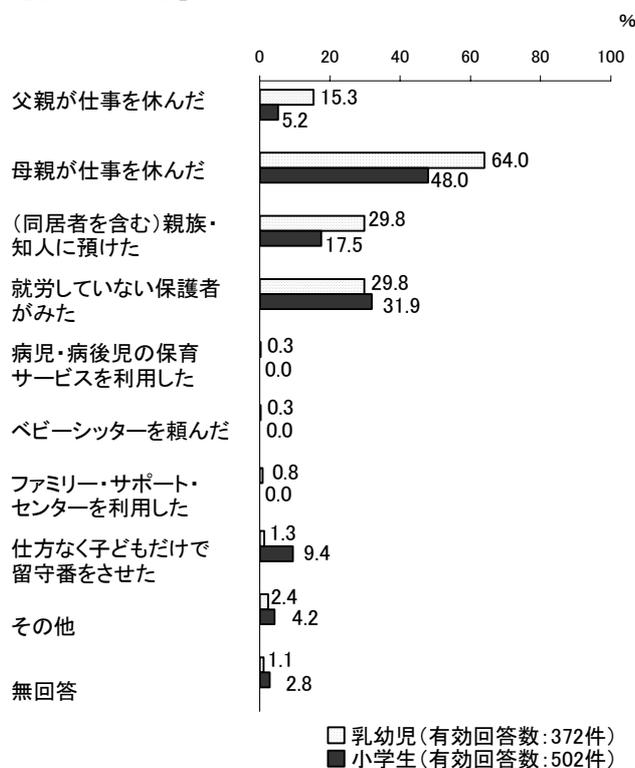
子どもが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったり、学校を休んだりした経験の有無をみると、乳幼児では「あった」の割合が3割を、小学生では6割を超えています。そのときの対処方法としては、乳幼児、小学生ともに、「母親が仕事を休んだ」の割合が最も高くなっています。

また、「父親、または母親が休んだ」、「親族・知人に預けた」世帯で、どこかに「預けたいと思った」割合が、乳幼児では4割以上、小学生では2割以上となっており、病後児保育に対する潜在的なニーズがあることがうかがえます。

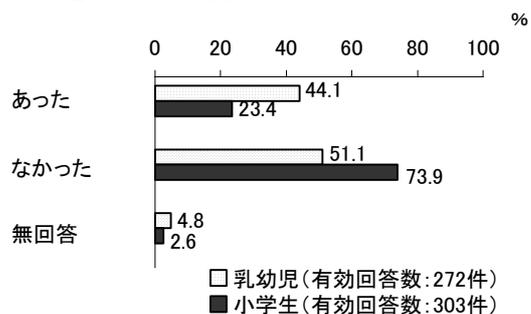
【保育サービスが利用できなかったり、学校を休んだりした経験の有無】



【そのときの対応方法】



【どこかに預けたいと思ったことがあるか】



4) 放課後児童クラブと放課後子ども教室の利用意向について

放課後児童クラブとは、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに指導員のもとで、授業終了後の子ども（おおむね10歳未満）の生活の場を提供するものをいいます。

放課後子ども教室とは、保護者の就労の有無にかかわらず、すべての子どもを対象として、学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組をするものをいいます。

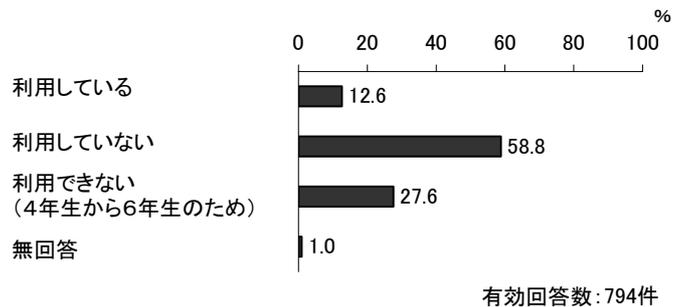
放課後児童クラブの利用状況をみると、「利用している」人の割合は約1割となっているものの、放課後児童クラブに今後希望することについては、「利用できる学年を延長してほしい」が3割、「費用負担を安くしてほしい」の割合が2割強と続き、制度の一層の充実が求められています。

一方で、「現在のままでよい」の割合が2割強となっています。これは母親の就労状況の質問で、母親がパートタイム・アルバイト等で就労している家庭の割合が、フルタイムで就労している家庭より多くなっていることから、子どもの下校時間には母親が帰宅している家庭が多いためと考えられます。

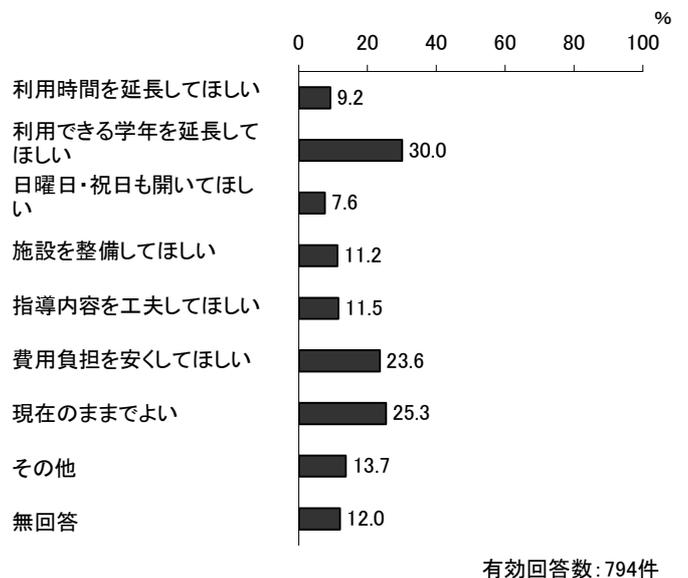
また、放課後子ども教室の利用希望をみると、「利用したい」人の割合が6割を超えています。

放課後児童クラブに今後希望することにおいて、「利用できる学年を延長してほしい」の割合が高くなっていることから、現在放課後児童クラブを利用できない小学4年生から6年生の家庭からのニーズが含まれていると考えられます。

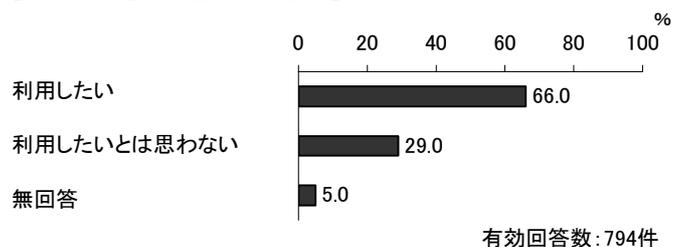
【放課後児童クラブの利用状況】



【放課後児童クラブに今後希望すること】



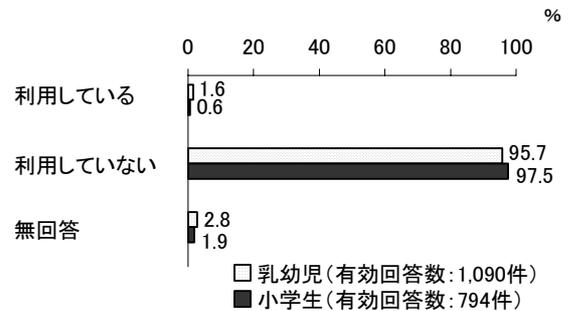
【放課後子ども教室の利用意向】



5) ファミリー・サポート・センターの利用状況について

ファミリー・サポート・センターとは、地域において保育を受けたい人と行いたい人が会員となり、保育について助け合う会員組織です。

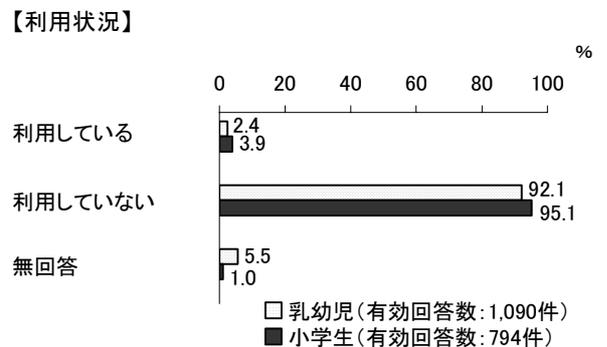
ファミリー・サポート・センターの利用状況を見ると、【利用状況】乳幼児、小学生ともに「利用している」人の割合は、全体のなかでごくわずかとなっています。



6) 「子育て新川サポートステーション タイム」「保育サポート えぷろん」の利用状況について

「子育て新川サポートステーション タイム」「保育サポート えぷろん」とは、ファミリー・サポート・センターと同じく、地域において保育を受けたい人と行いたい人が会員となって、保育について助け合うグループです。

「子育て新川サポートステーション タイム」「保育サポート えぷろん」の利用状況を見ると、乳幼児、小学生ともに「利用している」人の割合は、全体のなかでごくわずかとなっています。

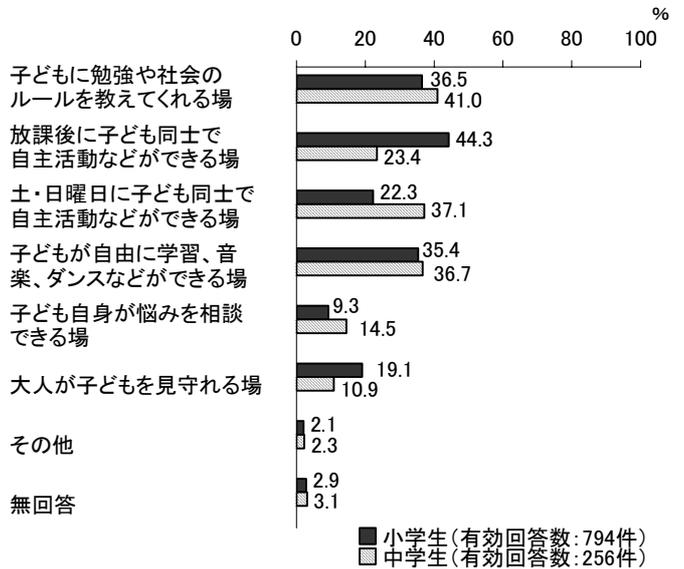


7) 子ども同士が交流できる場、家の近くの遊び場について

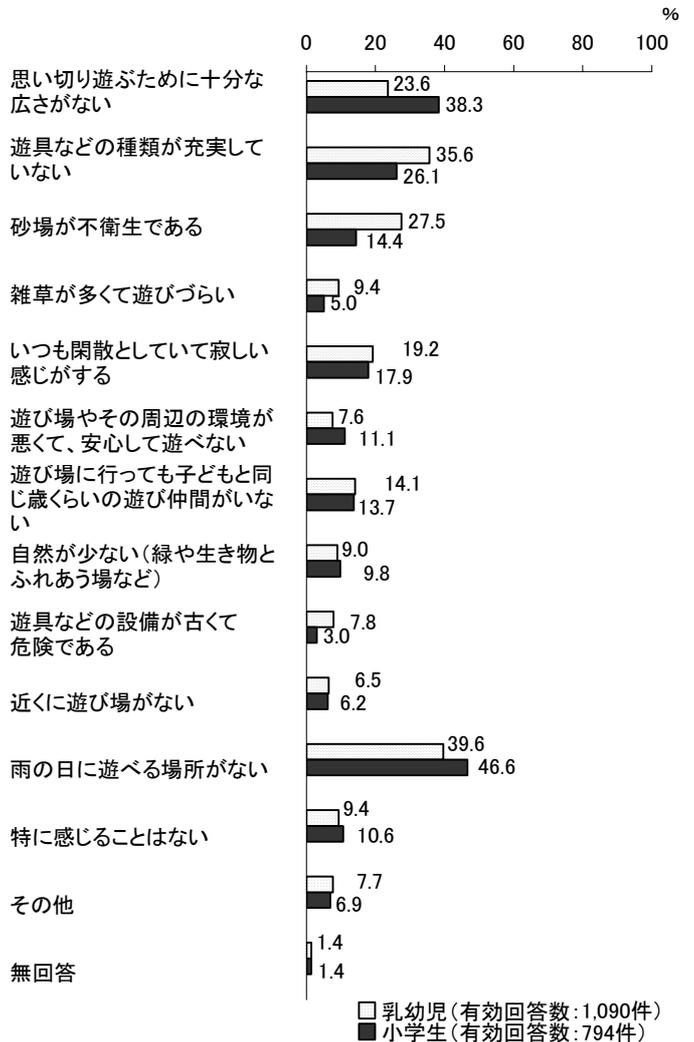
子ども同士で交流など行うことができる場に望むことについて、小学生では「放課後に子ども同士で自主活動などができる場」、「子どもに勉強や社会のルールを教えてくれる場」、「子どもが自由に学習、音楽、ダンスなどができる場」の順となっており、中学生では「子どもに勉強や社会のルールを教えてくれる場」、「土・日曜日に子ども同士で自主活動などができる場」、「子どもが自由に学習、音楽、ダンスなどができる場」の順となっています。

また、家の近くの遊び場について日頃感じていることについて、「雨の日に遊べる場所がない」、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」の割合が高かったことから、雨の日でも自由に過ごせる十分な広さのある場所を求めていることがうかがえます。

【子ども同士が交流できる場に望むこと】



【家の近くの遊び場について、日頃感じていること】



8) 仕事と子育ての両立についての保護者の考え

仕事と子育てに関する父親と母親の状況については、母親に比べ、父親で「子育てよりも仕事を優先している」、「やむをえず子育てより仕事を優先している」の割合が高いものの、父親では、乳幼児、小学生、中学生ともに、「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」の割合が高くなっています。

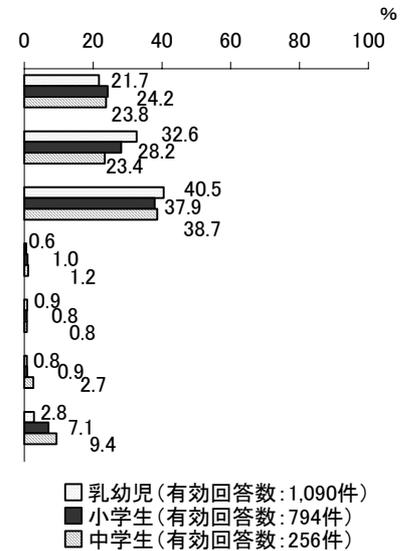
また、母親では、乳幼児、小学生、中学生と年齢が上がるにつれて、「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」の割合が高くなり、一旦離職した母親が就労に就くようになり、仕事と家庭の両立を図るよう努めていることがうかがえます。

【父親の状況】

子育てよりも仕事を優先している
 やむをえず子育てより仕事を優先している
 仕事と子育ての両立を図るよう努めている
 やむをえず仕事より子育てを優先している
 仕事よりも子育てを優先している

その他

無回答

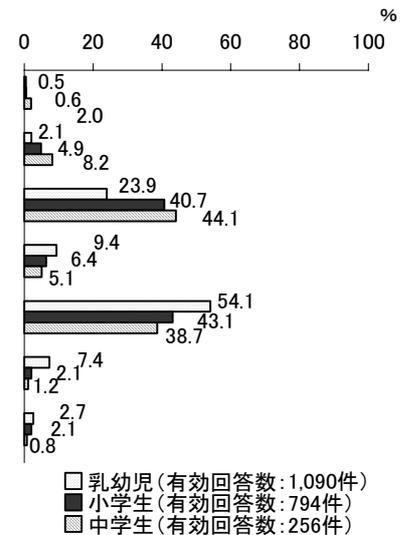


【母親の状況】

子育てよりも仕事を優先している
 やむをえず子育てより仕事を優先している
 仕事と子育ての両立を図るよう努めている
 やむをえず仕事より子育てを優先している
 仕事よりも子育てを優先している

その他

無回答

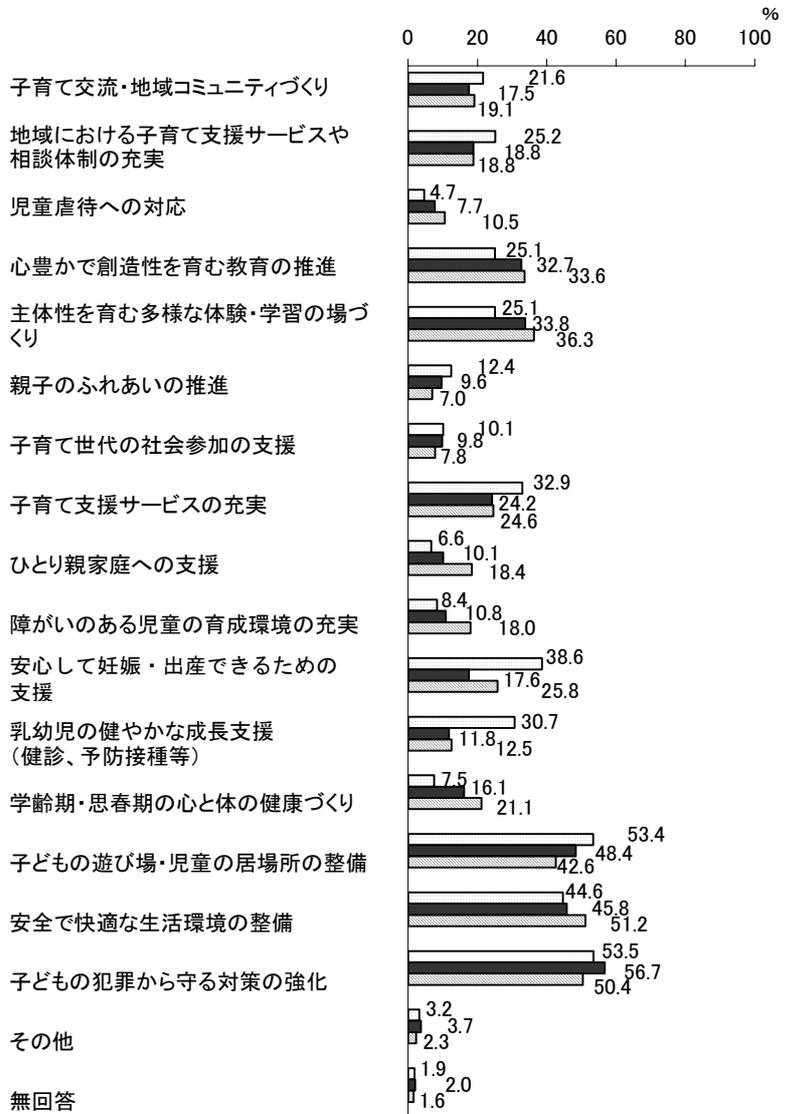


9) 清須市で子育てする上で大切なこと

清須市で子育てする上で大切なことについて、乳幼児、小学生、中学生とも「子どもの遊び場・児童の居場所の整備」、「安全で快適な生活環境の整備」、「子どもの犯罪から守る対策の強化」が上位3位となっています。

また、乳幼児では、「子育て支援サービスの充実」、「安心して妊娠・出産ができるための支援」、「乳幼児の健やかな成長支援（健診、予防接種等）」の割合が高く、小学生、中学生では「心豊かで創造性を育む教育の推進」、「主体性を育む多様な体験・学習の場づくり」の割合が高くなっていることから、子どもの年代においてニーズに違いがあることがうかがえます。

【清須市で子育てする上で大切なこと】



2 後期行動計画策定のためのグループヒアリング

「次世代育成支援対策行動計画」策定に向けたヒアリング調査では、市民の方々に対して、アンケート調査では把握できない具体的な声をうかがい、より実りのある計画づくりを行っていかうとするものです。

今回のヒアリング調査では、4つのグループをつくり、1時間程度の座談会形式を行いました。なお、当日、出席できなかった方についても事前に調査票に記入をいただき、とりまとめています。

日時：平成21年6月26日（金）

参加団体：各保育園の保護者から19名（2グループに分けて実施）

ファミリー・サポート・センターから3名

保育サポートグループ タイム・えぶろんから4名

保護者会からの主な意見

1) 子育て交流・地域コミュニティづくりについて

- ・ 小学生にはサタデーキッズクラブなどいろいろ学ぶ教室があるため、幼児にも同様に親子で専門的なことが学べたり楽しめたりする教室があるとよいと思います。
- ・ 親子でいろいろなことに取り組める行事があるとよいと思います。（廃品回収等、家族で参加して地域の人と交流ができると、さまざまな年代の方からアドバイス等子育てのヒントがもらえる）
- ・ 子育てする母親同士で交流できる場が保育園などでももう少しできるとよいです。現在、保育が終わった後はすぐ園を出なければならず、仕事をしている場合、話をしたりする場がほとんどもてない状態です。
- ・ 福祉センターに子どもがよく遊びに行き、老人と囲碁や将棋をしたり楽しんでいて、とてもいいと思います。
- ・ 子どもを中心としたイベントをたくさんやってほしいと思います。
- ・ 4年生から夏休みなど、長期の休みの時だけでも児童館などを利用したいです。

2) 地域における子育て支援サービスや相談体制について

- ・ ファミリー・サポート・センターのような事業は、仕事を持ちながら育児する人にとってありがたい事業であり、継続して行ってほしいです。
- ・ 近くに随時の託児施設がないため、市の行っているファミリー・サポート・センターに興味があるのですが、事前予約が必要なので、急な時に使えません。
- ・ 家族以外の人に子どもを託すには、その方々の人間性や互いの信頼関係が必要になると思います。
- ・ どんな子育て支援サービスがあるのか浸透していないと思います。（自分を含めて）積極的に自

分で調べるママさんばかりではないと思います。

- ・ 親がすぐに相談できる場所が少ないため、健診以外でも保健所と関わるとよいです。
- ・ 子どもが診てもらえる病院の診療時間や場所を地図などで一覧表があるといいです。
- ・ 義務教育の間は支援があるが、高校生になると急に支援がなくなるため、高校生でも支援は必要です。

3) 主体性を育む多様な体験・学習の場づくりについて

- ・ 保育園、学校などの枠組みに捉われない形での農業体験ができるといいと思います。それが食への関心につながり健康へもつながると思います。
- ・ 人形劇講演や外で集団遊び教室など、多彩な催し物をつくってほしいです。

4) 親子のふれあいができる家庭環境について

- ・ 社会全体が子育てしやすいよう、仕事（職場）で休みがとりやすい環境になってほしい。

5) 子育て支援サービスについて

- ・ 6月より始まった小学校の放課後子ども教室は、長期休暇には開催されないのは不便です。名古屋市内のように年中やってほしいです。
- ・ 預かるだけが支援じゃないと思います。本当の意味での子育て支援をされるとよいです。
- ・ 産休明けからすぐに預かってもらえる施設をつくってほしい。
- ・ 現在、保育サポートステーションは一時間単位の料金ですが、半日・1日と割引した料金があるとよいです。
- ・ 仕事を始めたくても子ども連れだと面接にも行けないので保育園で一時保育をしてほしいです。
- ・ 日・祝日の保育も必要になってきていると感じます。

6) 乳幼児の健やかな成長支援について

- ・ 定期的な健康診断や歯科健診、内科健診をしているが、年に一度くらい、血液検査や心電図など、もっと踏み込んだ健診をやってもらえればと思います。
- ・ 小学生まで医療費を負担してくれるようになったことがとてもうれしい。このままずっとこの制度を続けてほしいです。
- ・ 子どもの1人1人の成長に違いがあるが、普通と違うと悩む人もいるので、うまくフォローしてくれるといいと思います。
- ・ 食育のための専門家、アドバイザーによる定期的な勉強会を開催してほしいです。
- ・ 子どもと親に食育について指導してほしいです。保育園で出される給食の利点や保育園で行っている運動の利点、各家庭で実践できそうな食事や運動の指導等を教えてほしいです。

7) 学齢期・思春期の心と体の健康づくりについて

- ・ 公園はたくさんできているが、どれも同じような遊具ばかりです。体力があつて健康が維持されるため、アスレチックなど体力を使う道具があつてもいいと思います。

8) 子どもの遊び場・児童の居場所について

- ・ 地域によって、公園の充実度に関心があるように感じます。子どもが安心して行動のできる公園、遊び場を増やしてほしいです。
- ・ 雨の日に子どもが遊びに行ける場所が少ないので増やしてほしいです。

9) 安全で快適な生活環境について

- ・ 大人のマナーやモラルが悪く、道路を好き勝手に横断、ごみのポイ捨てなどしています。その結果、子どもが横断歩道を使わず、裸足で遊べる場所さえなくなっています。
- ・ 急に飛び出す事があるので、歩道と車道の間には白線だけではなく、仕切りがあるとよいです。

10) 子どもを犯罪から守る対策について

- ・ 子どものために地域の方々にパトロールをしていただいて、一人でも多くの方に見られる事で子どもも親も安心できます。ボランティアでは申し訳ないので報酬制にしてもよいと思います。
- ・ 不審者情報は小学校で携帯メールで回っていますが、保育園でも行ってほしい。不審者情報メールは地域によって同じ事件でもばらつきのあるため、文章を清須市で統一してほしい。
- ・ 子どもにとって安全でいかに犯罪が起きにくい街を地域が一丸となつてつくっていくかが課題です。
- ・ 高齢者の方が、学校まで送迎してくれたり、防犯ブザーの配布があつたり、防犯という点で役立っていると思います。
- ・ 児童が防犯ブザーを使っていなくて、犯罪が起きているのも事実だと思うので、もう少し防犯ブザーの使い方の練習をする機会を増やした方がよいと思います。
- ・ 子どもたちは、夕方の時報を知らせるチャイムに反応しているため、安心します。
- ・ 様々な事件の被害に遭わないためにも、身近なところでどのようなことが起こっていて、どのように気をつける必要があるのか情報の提供を望みます。
- ・ 今のままだと信号の関連が良すぎて車のスピードが速く危ないので、信号を増してほしいです。
- ・ 街灯を増やして、暗い場所、道などをなくしてほしいです。
- ・ 通学路をもう少し人通りのある道にしてほしいです。道を一本ずらすなど子どもが1人になる時間を少しでも減らしてほしいです。
- ・ 不審者が多く、子どもを1人で外に出すのが怖いです。自立させたくても常に親の付き添いが必要になるので、不審者対策を強化してほしいです。

ファミリー・サポート・センターからの主な意見

1) 子育て交流・地域コミュニティづくりについて

- ・ ファミリー・サポート・センターの行事に参加して、他の行事にも参加するなど活動の場が広がります。ファミリー・サポート・センターに参加していろいろなつながりができました。
- ・ 清須市在住の人と、他から引越ししてきた人では雰囲気違います。地域が密着しすぎているので、地域に入りづらい人がいます。

2) 子育て支援サービスについて

- ・ 実際は困っているのに、制度を知らないため何もできない人、子育ての楽しさがわからないまま、一日が終わっていく人など、多いのではないのでしょうか。もっと PR 方法を考えるべきだと思います。
- ・ 近くにファミリー・サポート・センターがあるのに、制度を知らないため、民間のベビーシッター会社を利用している人がいます。ファミリー・サポート・センターを利用していただければ、母親同士のつながりも持てるし、地域のつながりもできてくるのではないのでしょうか。
- ・ 転勤してきた人や引越ししてきた人が安心して利用したいと思う宣伝にしてほしいです。H.P. を明るくしたり写真を入れたりして、安心感を与えてほしいです。
- ・ 近年の経済状況の中、夫婦共働きで遅くまで働いている家庭が増えているため、子どもの夕食において、保育園で提供するか、ファミリー・サポート・センターで提供していくのか、それとも市で何か受け皿を用意していくのか考えないといけないのではないかと感じます。

3) 児童虐待への対応について

- ・ 子どもを通じて家庭の事情が見えてくるため、立ち入っていい問題なのかどうなのか迷うことがあります。

保育サポートグループ 「タイム・えぷろん」 からの主な意見

1) 子育て交流・地域コミュニティづくりについて

- ・ エネルギーでリーダーシップのとれる若いママやパパの力を引き出し活躍できる場所の提供が必要です。
- ・ 保育園では、園庭開放など地域の参加ができるようになってうれしいですが、数年前まではあった夏まつりやもちつき大会の参加はなくなり残念です。

2) 子育て支援サービスについて

- ・ 子育て中の親の精神面でのサポートを必要とされている方が多いです。
- ・ 私たちは、療育セミナーの託児ボランティアを年何回か引き受けていますが、ファミリー・サポート・センターの提供会員の方も参加していただくと、お互いの交流にも勉強にもなると思います。
- ・ まだまだ知識、経験不足なので年1、2回でも講演会などが身近なところであると助かります。
- ・ 親子で集まることのできる場所の提供は行政とボランティアサークルなど市内にたくさんあります。社会福祉協議会などと横のつながりを持ち、ホームページに一覧を載せるなど、利用者が利用しやすい広報活動は必要ではないでしょうか。
- ・ 長時間保育を依頼された場合、一人のサポーターで受けることができず、サポーターの家を子どもさんが移動することもあります。皆で利用できる保育場所があれば、子どもの移動はなく、サポーターの移動だけで済みます。
- ・ 悩みが深ければ深い程、外に出ることが少なくなり、相談の手段は「親しい人（友人、身内）」「行政」しかありません。それには「電話」という手段がキーポイントになってきます。普通の親の相談窓口としては「広報」と思います。
- ・ 産休明けの保育（生後2か月～）をしている共同保育所（清洲町内）があるが、無認可のため、保育料が高く、預けるのが困難だという声が多いです。産休明け保育を必要とする家庭を助けるためにも、清洲市で認可保育所にして、産休明け保育の窓口を広げてほしいです。
- ・ 子育て支援が充実することを望みながらも、便利過ぎるのもよくないのではとも思います。
- ・ 子育てだけでなく親育てということにターゲットを絞って、切り替えていくことが必要だと思います。親自身、自分が努力するとか、自分が学ぶということを粘り強くやっていく講座が少ないので残念です。
- ・ 各種行事に出やすい人、出られない人、それが楽しかった人、そうでない人で終わってしまわないで、出てこられない人をこちらから探し、参加できるようにしていく行事を作してほしい。

3) 児童虐待への対応について

- ・ 家庭内虐待等、家庭の中に問題がある場合の対応に悩むこと（親のうつ）があります。そういった場合に専門的な相談ができる場があるとよいです。

4) 親子のふれあいについて

- ・ 親（子育てする側）を対象とした支援ばかりが目立ち、子ども側からの支援は無視されているように思います。子どもたちが充実して生活ができるよう考えてほしいです。もっとゆとりのある子どもがのびのびと生活できるような子育て、保育ができるよう支援してほしいと思います。
- ・ 子育てを楽しめるように子どもと向き合い、育児にはまる時期があってもいいと思います。その生活の中で不安になり、ちょっと手を借してほしい時に、サポートできれば幸せです。

5) ひとり親家庭への支援について

- ・ 生活保護を受けている方（母子、父子）等、生活上何らかの支援を受けている家庭への利用料の支援をしてほしいです。

6) 障がいがある児童の育成環境について

- ・ 何かしらの障がいがあるという理由で、児童館に受け入れられてもらえなく、市外の福祉支援施設をご自身で深して利用している方もみえます。市で柔軟な対応をしてくださると保護者、子ども本人の負担が減り、子育てをもっと楽しめると思います。

7) 乳幼児の健やかな成長支援について

- ・ 保健センター等で検診時に「〇か月では〇〇ができなくてはならない」という話をよく聞きます。型に当てはめる考え方ではなく、柔軟な声かけをしてほしいです。

8) 学齢期・思春期の心と体の健康づくりについて

- ・ 小学校では、アレルギー対応の給食を作ってもらえません。アレルギーの子どもたちも増えている中、アレルギー対応の給食を小学校でもやってほしいです。

9) 子どもの遊び場・児童の居場所について

- ・ 小学生が遊べる場所の確保。ボール遊びのできる公園が少ない。

10) 子どもを犯罪から守る対策について

- ・ 登下校の見守りなど地域ボランティアで子どもの安全確保に協力していただいています。

3 後期行動計画策定のためのワークショップ

親子でふれあいを通じて、「親と子」「親同士」「子ども同士」のコミュニケーションの大切さに改めて理解していただくとともに、自分自身でできる地域での子育て支援に気づいていただくきっかけとなることを目的としてワークショップを開催しました。

日時：平成21年7月13日（月）

参加者：各児童館・児童センターの親子18組出席

プログラム：1 始めの言葉（今日のスケジュールについて）

2 自己紹介ゲーム ちゃんはどこでしょう？

3 紙芝居「みんなでいないないばあ」

4 親子触れ合い遊び「ポップコーン」 集合遊び

「みんなで散歩」 みんなで握手

5 カード遊び「動物カード探し」 簡単な絵合わせ（動物など）

6 作って遊ぶ「紙コプター」 身近にあるティッシュなどを使った遊び

7 児童館の紹介

8 パネルシアター アンパンマン・バイキンマンを使って活動を振り返る

9 おわりの言葉

本日参加してどうでしたか？

1) 親子で楽しめました

- ・ 親子で楽しめたのが良かったです。これからも、色々な遊びを教えてください。
- ・ 色々な遊びを、息子と出来て楽しかったです。小学生の息子とも一緒に遊ぼうと思います。
- ・ 色々な遊びが出来て子どもも楽しそうで良かったです。今後も、機会があれば参加したいです。
- ・ 子どもは、「おもしろかった」と、喜んでいました。私自身も、皆さんが積極的に参加され楽しんでる中で、遊べて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ とても楽しかった。
- ・ いつもは、母親から離れない子ですが、今日はとても楽しく過ごせました。
- ・ 広くて楽しかったです。
- ・ 子どもも楽しんでいたので、参加できてよかったです。ポップコーンなど家でも出来る遊びなので、家でも実行出来たらと思います。
- ・ すごく楽しかったです。児童館も広くて綺麗で安全。また、このような機会があれば、是非参加したいです。有り難うございました。
- ・ 子どもも親も楽しく遊ぶことが出来ました。
- ・ 今日は、とても楽しかったです。どの遊びも楽しく参加出来て上手に出来たのがすごく嬉しかったです。

2) 最初は緊張しましたが、友だちとも仲良くなりました

- 最初、知らない顔がたくさんで、子どもも緊張していたようでしたが、楽しい遊びに途中からにこにこしてきました。子どもとの遊びも色々工夫できるんですね。
- 参加して良かったです。初め親子緊張していましたが、だんだん子どもも楽しそうで、はしゃいでくれて良かったです。
- 楽しかったです。他に参加されていたお友達ともっと仲良くなりたいなと思いました。
- 始まってしばらくは慣れない場所やメンバーだったので、恥ずかしがってなかなか遊びに集中出来なかったのですが、後半はいつもの様に楽しんでいる姿を見て私も嬉しかったです。家に帰っても上のお兄ちゃん（5歳）とも一緒に遊びたいと思いました。家の中では家事を優先してしまうので、なかなか子どもと向き合う時間を作れないのでいい機会でした。

3) 参加して気づいたこと

- とても楽しかったです。家の中では今日のように体をおもいきり使ったり、走り回ったり、お友達と過ごしたり出来ないのが、貴重な経験が出来ました。母親の私もずっとニコニコ笑顔で過ごせました。素適な時間で有り難うございました。

4) また是非とも参加したい

- また、イベントがあったら参加したいです。たくさんの親子と過ごす時間は大切だと感じました。



どの遊びが楽しかったですか？

1) 総括

もっとも人気が高い「動物カード探し」、次いで「紙コプター」、その他「紙芝居」「ポップコーン」など、全部楽しかったという意見もありました。

2) その他意見

- ・ 全部楽しかったです。動物を取りに行くのも1人で行けたので良かったです。
- ・ 動物のカード探し遊びを楽しんでいました。一番にカードを取りに行こうと、歌が終わるまで、ウズウズしながら待っていました。
- ・ どれも子どもが興味をもちそうなあそびでした。動物のカードや絵本を楽しそうにしていました。
- ・ 一番楽しかったのは、うさぎ、いぬなどカードを見つけてお家に入れてあげる遊びです。ずっと私（親）から離れなかった娘が、キヤー、キヤー言って喜んでとりに走りに行く姿を見て、家でもやって見ようと思いました。紙芝居の読み聞かせ、ポップコーンなどのリズム遊びもとても楽しかったです。
- ・ チラシのおもちゃ、夢中で遊んでいました。家でもすぐ出来るので良かったです。
- ・ お散歩。動物探し。紙芝居。ポップコーン。紙コプター。全部楽しかったです。有り難うございます。
- ・ 音楽に合わせて歩いたり、友達といっぱい握手出来て楽しかったです。



4 療育研究会における在園児及び修了者に対する意見集約

清須市では療育研究会を設置し、今後の療育についてあり方を研究しています。

この研究会の調査（平成20年度）では、清須市における18歳以下の児童の1.5%は、なんらかの障害を有しています。また、未就学児のうち、なんらかの障害を有している割合は1.3%となっており、この割合から推測すると、毎年9人前後の児童がなんらかの障害を有することになります。

今回、「たんぽぽ園」に在園している児童と、すでに修了した児童の保護者に対しアンケート調査と座談会を実施しました。

アンケート実施日時：平成21年8月・9月 回答者数：54名

座談会 在園している児童保護者 平成21年9月16日 13名

修了している児童保護者 平成21年9月17日 11名

アンケートの集約

1) 在園児に対するアンケート調査で最も多かった回答

- ・ たんぽぽ園に通園する前は「健康推進課」に相談していた。
- ・ たんぽぽ園に通園する前は「言葉が遅い」ことが不安や悩みだった。
- ・ たんぽぽ園に通園して「よかった」。特に「先生からのアドバイスをもらったり相談できる」ことが「よかった」。
- ・ 通園中は「お弁当作り」が大変だった。
- ・ 幼・保の先生に特徴など知ってもらうことで困ったことは「生活していけるか不安」ということ。

2) 修了者に対するアンケート調査で最も多かった回答

- ・ たんぽぽ園に通園する前は「健康推進課」に相談していた。
- ・ たんぽぽ園に通園する前は「言葉が遅い」ことが不安や悩みだった。
- ・ たんぽぽ園に通園して「よかった」。特に「他の母と友達になれた（話せる仲間ができた）」ことが「よかった」。
- ・ 通園中は「お弁当作り」が大変だった。
- ・ 幼・保の先生に特徴など知ってもらうことで困ったことは「特になかった」。
- ・ たんぽぽ園から幼・保への連携は「よかった」。
- ・ たんぽぽ園を修了後相談できる人は「たんぽぽ園で一緒だった母たち」。

在園児に対する座談会の主な意見

1) 支援やケア全般について

- 言語聴覚士の先生に来てもらうなど、専門家の先生に教えてもらえるといい。
- もう少し適切なアドバイスがもらえたらいいかと思う。個別で話をする機会がとれるといい。母親同士の話をする時間もほしい。
- 子育てがわからないまま生活している。こんな時はこんなふうというアドバイスがほしい。
- 個人個人のケアプラン、個人の目標を立ててくれるとよい。遊びの中ではこの子はここに重点を置くなど先生が全員共通理解をしていかななくてはいけない。

2) 施設等について

- たんぽぽ園に床暖房があるといい。
- 庭があるといい。
- 給食など、週1回でも月1回でも皆と同じものがあるといいと思う。

3) 関係機関のつながり、連携について

- 保育園に通うことに不安があったが、加配の先生がつけてもらった。運動会の種目も子どもに合わせて考えてもらった。
- 市役所は縦割りなので、横の連携は出来ていないと思う。「ここではこのことが出来て、次はここへ行くとこんなことができます。こんなメリットがありますよ。」ということを知らせてほしい。

4) 不安だったこと、これから先の不安

- 保育園に入れようと決めた時は先生から「まだ早い」と言われた。このままここにいたら小学校まで本当に入れるのか不安だった。
- 唯一、のびのびできる場所でありたいと思う。そこしか行くところがないから子どもに療育を受けさせたいけれど母がストレスを感じている。母親も育てているのなら母親も来たい気持ちにさせないといけない。
- 幼稚園で出来ていてここでできないこともある。ここで出来て幼稚園で出来ないこともある。ここへ通うだけで大丈夫なのか。精神的にここに通うのに疲れてしまう。

修了者に対する座談会の主な意見

1) 相談する時間・場所はあったか

- ・ 何か問題があったときに自分で言えば時間を作ってもらえた。母の学習会で、皆のいるところでそれぞれが言う。最近どう？という感じ。それはそれで皆の状態が参考になってよかった。
- ・ 療育が終わってから「今日はどうだった？」など、いろいろなことを聞かれて、いやだなと思ったことがあった。
- ・ 一人の子が幼稚園から就労まで、どこかへ相談できる1つの基点となる場所があるといい。このことについてこの機関に話をするなど、子ども達の昔をしっている人たちが集まって相談の方向を決めて進めるシステムがあるといい。

2) 学校生活で悩んでいることは？ こんなことが必要ということはないか？

- ・ 学校と福祉がお互いに連携すれば、助けを求めるところがわかるようになるのではないか。
- ・ 先生は親が感じていることや考えていることに、もっと理解をしてほしい。

3) 学校以外の時間はどのように過ごしているのか？

- ・ 日中一時、デイサービスなど、自分で通える場所があるとうれしい。興味のあるものに、仲間と共有できる場所がほしい。
- ・ 市の方で主催してくれる全体でやる企画があると交流も広がっていいと思う。

4) これからの人のために特に改善していくといい点はあるか？

- ・ たんぽぽ園の存在は知られていないので啓発してほしい。

春日地区 アンケート調査等概要

1 子育て支援に関するアンケート調査（概要）

春日町では「次世代育成支援対策推進行動計画＜後期＞」の策定のため、アンケート調査を実施しました。調査結果から抜粋し、その概要をまとめました。

【調査の概要】

調査対象：乳幼児（0～5歳）の保護者、336人（回収；198人）

小学生（1～6年）の保護者、359人（回収；230人）

中学生（1～3年）の保護者、183人（回収；137人）

合計 878人（回収；565人）

調査期間：平成20年12月に発送し、平成21年1月まで実施しました。

調査方法：調査票による本人記入方式 郵送、または保育園・小中学校における配布・回収

回収率：全体 64.4%

1) 保護者（母親）の就労状況からみる保育サービスの潜在ニーズ

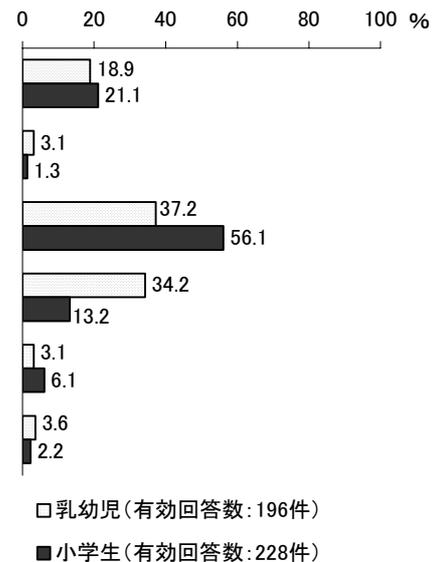
母親の就労状況を見ると、乳幼児の母親の約4割、小学生の母親の約2割が現在未就労の状況です。

また、今後の就労意向については、乳幼児の母親では約8割、小学生の母親では約7割が今後の就労を希望しています。

しかし、就労希望がありながら現在働いていない理由については、乳幼児、小学生の母親ともに「働きながら子育てができる適当な仕事がない」の割合が2割以上と他の理由に比べて高くなっており、短時間労働やフレックス制など子育てしながら働きやすい就労の場の確保が困難であることがうかがえます。また、小学生の母親では「家族の考え（親族の理解が得られない）等就労する環境が整っていない」の割合が2割以上と高くなっています。

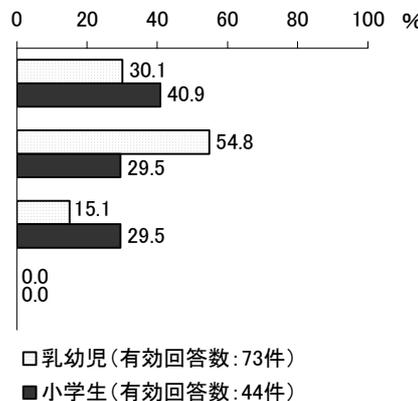
【母親の就労状況】

- 就労している（フルタイム：産休・育休・介護休業中は含まない）
- 就労している（フルタイムだが産休・育休・介護休業中）
- 就労している（パートタイム、アルバイト等）
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまでに就労したことがない
- 無回答



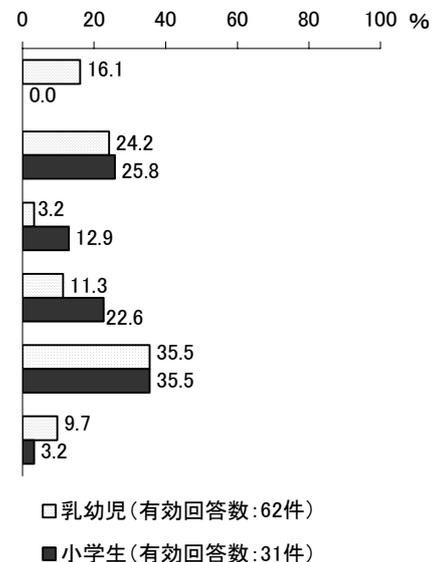
【今後の就労意向】

- 思っている（すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい）
- 思っている
- 思っていない
- 無回答



【現在働いていない理由】

- 保育サービスや放課後児童クラブなどが利用できれば就労したい
- 働きながら子育てできる適当な仕事がない
- 自分の知識、能力にあう仕事がない
- 家族の考え（親族の理解が得られない）等就労する環境が整っていない
- その他
- 無回答

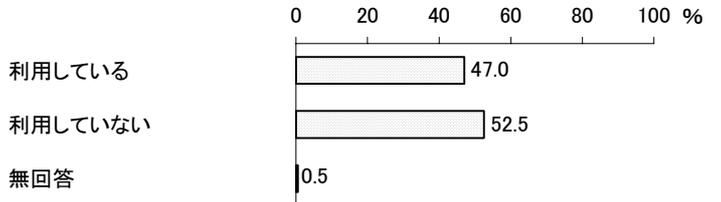


2) 現在の保育サービスの利用状況について

今回のアンケート調査結果で、定期的に保育サービスを利用しているかについて、「利用している」との回答があった家庭は約5割となっています。

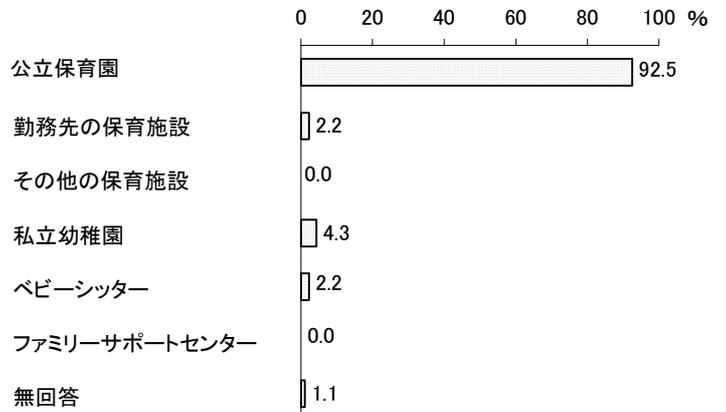
利用している保育サービスの種類をみると、公立保育園が約9割となっています。

【保育サービスの利用状況】



有効回答数: 198件

【利用している保育サービス】



有効回答数: 93件

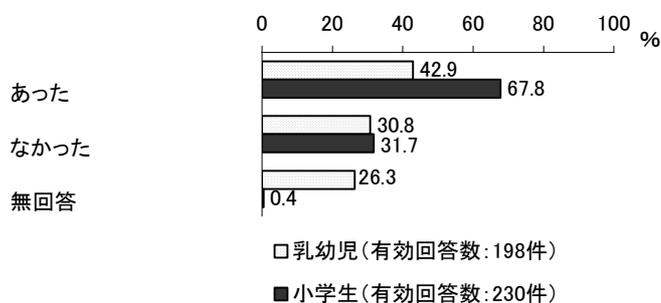
3) 病後児保育の利用意向について

子どもが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったり、学校を休んだりした経験の有無をみると、乳幼児では「あった」の割合が4割を、小学生では6割を超えています。

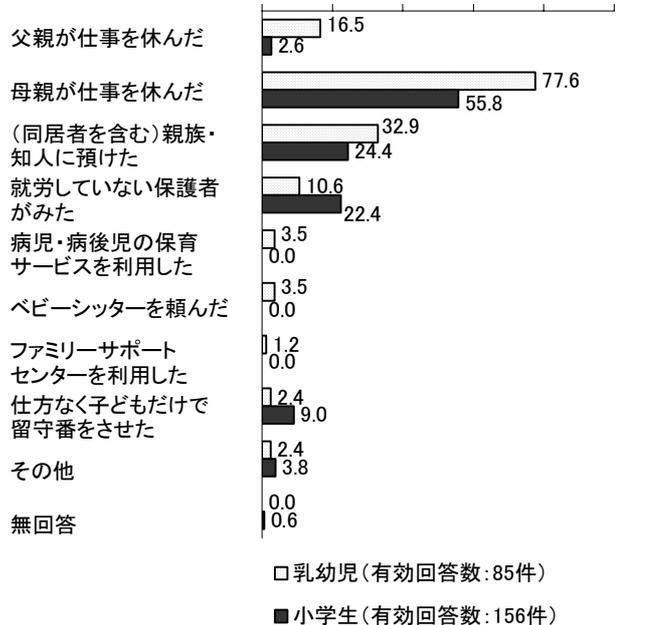
そのときの対処方法としては、乳幼児、小学生ともに、「母親が仕事を休んだ」の割合が最も高くなっています。

また、「父親、または母親が休んだ」、「親族・知人に預けた」世帯で、どこかに「預けたいと思った」割合が、乳幼児では4割以上、小学生では2割以上となっており、病後児保育に対する潜在的なニーズがあることがうかがえます。

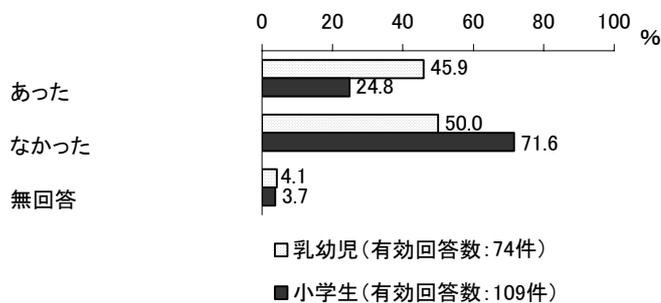
【保育サービスが利用できなかったり、学校を休んだりした経験の有無】



【そのときの対応方法】



【どこかに預けたいと思ったことがあるか】



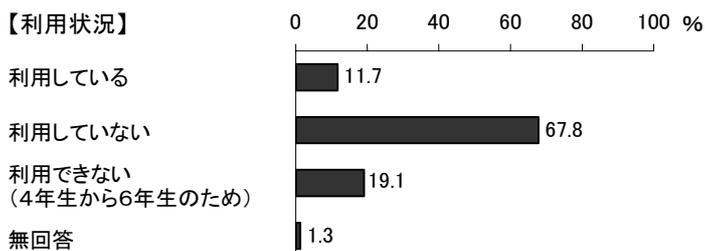
4) 放課後児童クラブと放課後子ども教室の利用意向について

放課後児童クラブとは、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに指導員のもとで、授業終了後の子ども（おおむね10歳未満）の生活の場を提供するものをいいます。

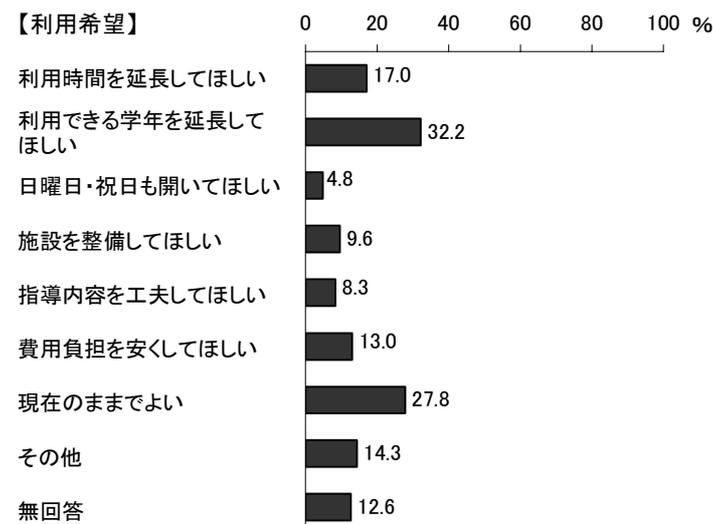
放課後子ども教室とは、保護者の就労の有無にかかわらず、すべての子どもを対象として、学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組をするものをいいます。

放課後児童クラブの利用状況をみると、「利用している」人の割合は約1割となっているものの、放課後児童クラブに今後希望することについては、「利用できる学年を延長してほしい」が約3割、「利用時間を延長してほしい」の割合が1割強と続き、制度の一層の充実が求められています。

一方で、「現在のままでよい」の割合が2割強となっています。これは母親の就労状況の質問で、母親がパートタイム・アルバイト等で就労している家庭の割合が、フルタイムで就労している家庭より多くなっていることから、子どもの下校時間には母親が帰宅している家庭が多いためと考えられます。

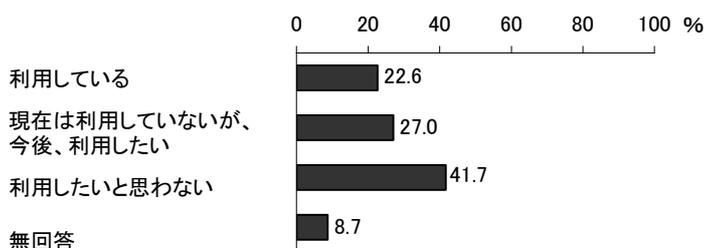


有効回答数: 230件



有効回答数: 230件

【放課後子ども教室の利用状況・意向】



有効回答数: 230件

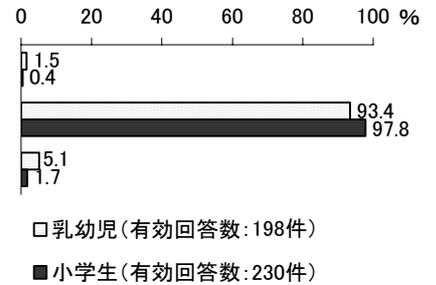
5) ファミリー・サポート・センターの利用状況について

ファミリー・サポート・センターとは、地域において保育を受けたい人と行いたい人が会員となり、保育について助け合う会員組織です。

ファミリー・サポート・センターの利用状況を見ると、乳幼児、小学生ともに「利用している」人の割合は、全体のなかでごくわずかとなっています。

【利用状況】

利用している
利用していない
無回答

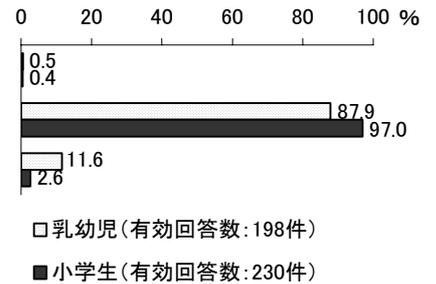


6) 保育について助け合うグループの利用状況について

近隣において保育を受けたい人と行いたい人が会員となって保育について助け合うグループの利用状況を見ると、乳幼児、小学生ともに「利用している」人の割合は、全体のなかでごくわずかとなっています。

【利用状況】

利用している
利用していない
無回答

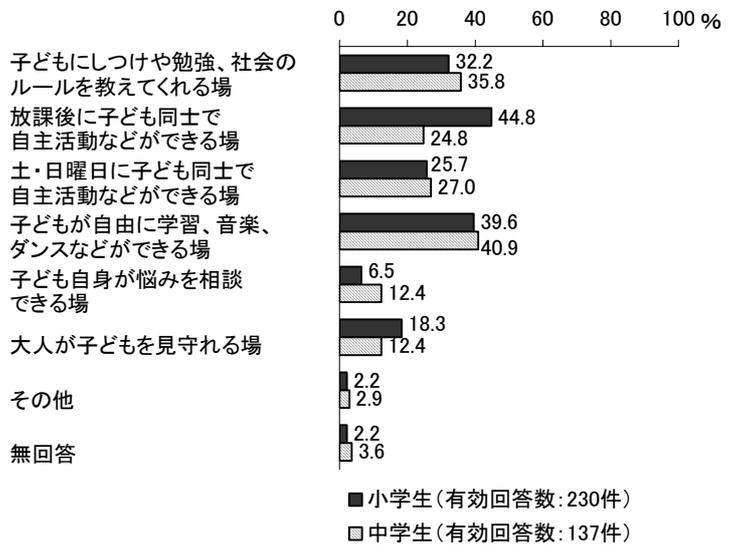


7) 子ども同士が交流できる場、家の近くの遊び場について

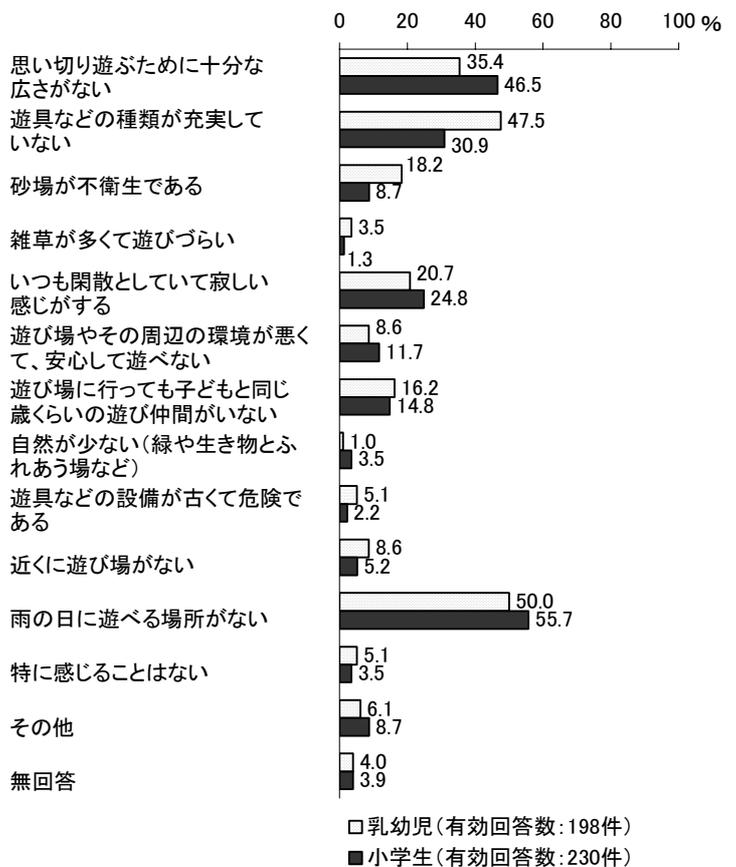
子ども同士で交流など行うことができる場に望むことについて、小学生では「放課後に子ども同士で自主活動などができる場」、「子どもが自由に学習、音楽、ダンスなどができる場」、「子どもにしつけや勉強、社会のルールを教えてくれる場」の順となっており、中学生では「子どもが自由に学習、音楽、ダンスなどができる場」、「子どもにしつけや勉強、社会のルールを教えてくれる場」、「土・日曜日に子ども同士で自主活動などができる場」、「放課後に子ども同士で自主活動などができる場」の順となっています。

また、家の近くの遊び場について日頃感じていることについて、乳幼児、小学生ともに、「雨の日に遊べる場所がない」、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」、「遊具などの種類が充実していない」の割合が高いことから、雨の日でも自由に過ごせる十分な広さのある場所など多様な遊び場を求めていることがうかがえます。

【子ども同士が交流できる場に望むこと】



【家の近くの遊び場について、日頃感じていること】



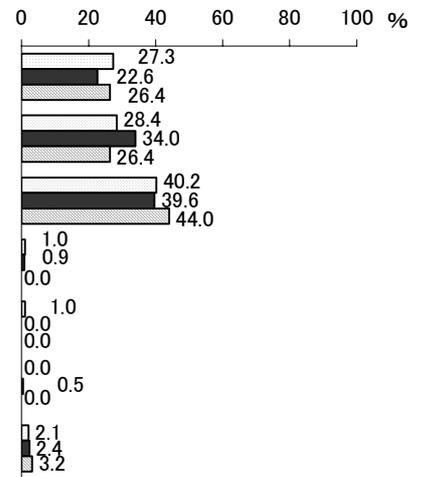
8) 仕事と子育ての両立についての保護者の考え

仕事と子育てに関する父親と母親の状況については、母親に比べ、父親の「子育てよりも仕事を優先している」、「やむをえず子育てより仕事を優先している」の割合が高いものの、父親では、乳幼児、小学生、中学生ともに、「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」の割合が高くなっています。

また、母親では、乳幼児、小学生、中学生と年齢が上がるにつれて、「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」の割合が高くなり、一旦離職した母親が就労に就くようになり、仕事と家庭の両立を図るよう努めていることがうかがえます。

【父親の状況】

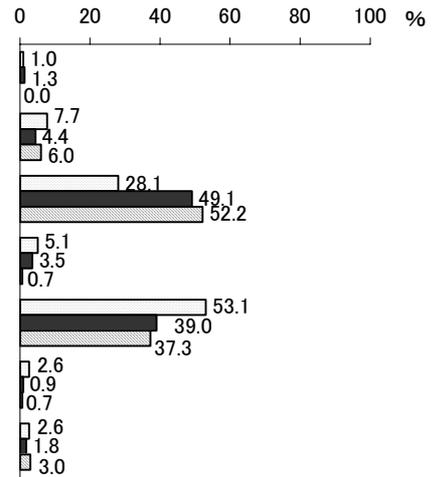
子育てよりも仕事を優先している
 やむをえず子育てより仕事を優先している
 仕事と子育ての両立を図るよう努めている
 やむをえず仕事より子育てを優先している
 仕事よりも子育てを優先している
 その他
 無回答



□ 乳幼児(有効回答数:194件)
 ■ 小学生(有効回答数:212件)
 ▨ 中学生(有効回答数:125件)

【母親の状況】

子育てよりも仕事を優先している
 やむをえず子育てより仕事を優先している
 仕事と子育ての両立を図るよう努めている
 やむをえず仕事より子育てを優先している
 仕事よりも子育てを優先している
 その他
 無回答



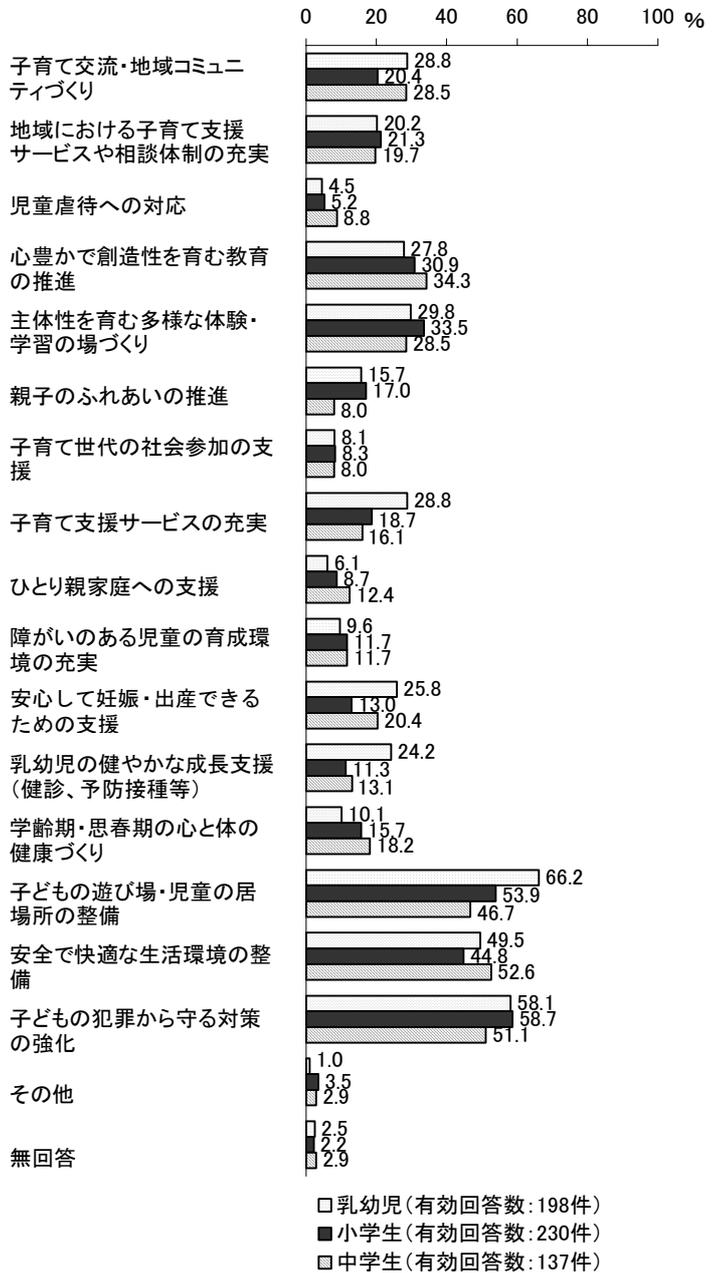
□ 乳幼児(有効回答数:196件)
 ■ 小学生(有効回答数:228件)
 ▨ 中学生(有効回答数:134件)

9) 春日町で子育てする上で大切なこと

春日町で子育てする上で大切なことについて、乳幼児、小学生、中学生とも「子どもの遊び場・児童の居場所の整備」、「安全で快適な生活環境の整備」、「子どもの犯罪から守る対策の強化」が上位3位となっています。

また、乳幼児では、「子育て支援サービスの充実」、「主体性を育む多様な体験・学習の場づくり」、「心豊かで創造性を育む教育の推進」、「子育て交流・地域コミュニティづくり」の割合が高く、小学生、中学生では「心豊かで創造性を育む教育の推進」、「主体性を育む多様な体験・学習の場づくり」の割合が高くなっていることから、子どもの年代においてニーズに違いがあることがうかがえます。

【春日町で子育てする上で大切なこと】



2 後期行動計画策定のためのグループヒアリング

「次世代育成支援対策行動計画」策定に向けたヒアリング調査では、町民の方々に対して、アンケート調査では把握できない具体的な声をうかがい、より実りのある計画づくりを行っていかうとするものです。

今回のヒアリング調査では、策定委員を通じて、各団体等からの意見を調査票に記入をいただき、とりまとめています。

1) 子育て交流・地域コミュニティづくりについて

- ・子育て支援センターという場だけに子ども連れしか来てはいけなようなイメージがある。また、妊娠中や1歳未満児の母親の割合も高いため、その場以上の交流は難しい。
- ・お母さん同士がつながる機会が欲しい。
- ・情報のメール配信があると良い。(児童館、子育て支援センター、保健センターなどの子育てに関する情報を1つにまとめる)
- ・地区サロンに子育て中の親子が参加されると、お年寄りにとっても嬉しいのではないか。
- ・各地区の公会堂に子育て中の親子が集う日を作れるとよい。(サークルの立ち上げ)

2) 地域における子育て支援サービスや相談体制について

- ・子育て支援センターを利用しながら、その時々で子どもを遊ばせながら子育ての心配事などを気軽に先生に相談できているので良い。
- ・悩み、アドバイス、経験談をHPで公開して欲しい。
- ・支援サービス等をHPで公開して周知して欲しい。
- ・定期的に相談日があるとよい。
- ・最近では日本人だけでなく、国籍の違う方が多くなりました。色々相談するうえで言語ボランティアを呼びかけてはどうですか？

3) 子ども主体性を育む多様な体験・学習の場づくりについて

- ・お部屋だけでなく、自然とふれ合う場や戸外での体験を増やして欲しい。
- ・田んぼの中での泥遊び。農業体験などをさせたい。食育や自然にふれ合う機会がほしい。
- ・夏休みの小学校のプール開放。
- ・キッズクラブの内容を増やして欲しい。
- ・幼児主体の体操教室又は、キッズクラブの幼児が参加できるのを作って欲しい。
- ・公民館やB&G、保健センターでは、さまざまな教室やクラブを行っています。何をしているのか知らない人が多いので、年に一度、広報などで全教室を紹介して欲しい。(大人も子どもも)合併すると、清須市の情報も欲しい。
- ・昔ながらの遊びを行って欲しい。(竹馬、お年玉、缶けり、大縄とびなど)
- ・定期的に学習することで子どもは確実に成長していきます。親子での積極的な参加が大切です。

4) 親子のふれあいができる家庭環境について

- ・支援センターで教えて頂いた手遊びや親子遊びを家庭でも取り上げたい。
- ・地域で親が積極的に参加できるお祭り、イベントをつくったり、盛りあげたりすれば、子どもも楽しみに参加し、自然と親子のふれあいができる。

5) 保育園・幼稚園・放課後児童クラブなど子育て支援サービスについて

- ・各園が早朝、延長など条件が同じようになり利用しやすくなったと思う。
- ・一時保育が、各園で行われるようになるとより良いと思う。
- ・病児保育があると良いと思う。
- ・土曜日、学校の長期休みに学校で児童クラブを開いて欲しいです。
- ・個人懇談を増やして欲しい。(時期を決めて、希望の人のみでも)
- ・放課後教室の3年生までを6年生まで希望があれば申し込み可能にして欲しい。(夏休み等もやって欲しい)又、時間を名古屋市のように6:00ぐらいにして欲しい。
- ・働くママも、働かないママも、目指すところは1つ。「幸せになりたい」だと思うので、向かう方法は、さまざまでも、それぞれに役立つ支援サービスを期待したい。

6) 乳幼児の健やかな成長支援について

- ・自分の子どもが順調な成長(内面的にも)をしているかどうか、これまでより健診の回数が増えると良いと思う。
- ・子育ての中で、言葉の遅れや動きの多いことや極度な人見知りなどを気にしているお母さん達も多いので、身体面だけでなく内面のことも分かるような機会があると良いと思う。
- ・予防接種の情報、又、おたふく等、任意予防接種(インフルエンザも)の補助をして欲しい。
- ・保健センターで行っていた、乳幼児の身体測定をずっと続けて欲しい。子育てに不安がある人はすぐに相談できるよう窓口の情報が欲しい。
- ・発達の遅い子や、集団生活になじめない子ども達を早期発見し、支援できるよう、普段から、保育園等に専門の人が見に行っていて欲しい。
- ・健診の状況はこれでよいのでは。もっと気軽に育児相談ができる窓口を増やす。

7) 学齢期・思春期の心と体の健康づくりについて

- ・皆でできる・体を動かす・頭を使う・好きなことを見つける。
- ・親が手本となる行動を心がける。
- ・スポーツ教室などがあると良い。(1つの競技にこだわらず、いろいろな運動をする)
- ・学校の部活動でスポーツを行うのではなく、社会教育の場で色々なクラブを作り、活動すれば、低学年から大人までのクラブが出来、大人が子どもを教え、大人もスポーツが楽しめ、どの年齢層も体力作りができる。

8) 子どもの遊び場・児童の居場所について

- ・もう少し色々遊びに連れていける場所があるとうれしい。
- ・雨の日は家の中で楽しく遊べるよう指導できる親の意識が大切だと思います。

9) 安全で快適な生活環境について

- ・通学路にも関わらず、車道に横断歩道がなく、朝の通学時間帯は交通量が多くて子どもがなかなか渡れない箇所がある。
- ・地域目で子どもたちを守る。
- ・学校でも、いろいろな道路のパターンなどを体験させた交通安全の指導をして欲しい。

10) 子どもを犯罪から守る対策について

- ・冬季と夏季で夕方のチャイムの時間を変える。
- ・自分の子ども以外にも目を配り、何かあったら声をかけて(助けて)あげる習慣作り。
- ・不審者情報を速やかに教えてもらえる環境作り。
- ・公園の木を低木にして欲しい。
- ・冬は下校時に暗いので街灯を増やして、交通指導員の方を増やして欲しい。(シルバーさんなど登下校を見て欲しい。)
- ・住民にパトロール用の蛍光のベストやたすきを配り、暗くなくても、犬の散歩やウォーキングにつけて歩いて頂くのも良いと思います。
- ・子ども110番などの制度があるが、どのように使われているかとか、どのように使ったらよいかなど具体例をあげたり、どこのどのような人が担当しているのかを、HPにとりあげたり、広報に載せたり、情報を身近に告知してほしい。

11) その他

- ・子育てマップを作って欲しい。(清須市すべての子育てに関する情報が欲しい。)
- ・留守家庭児童クラブ、放課後教室を利用して、ジュニアリーダーの育成をしてみてもは？大きな子が下の子の面倒をみるのも良いと思います。

市立幼稚園に関するアンケート調査

【趣旨】

- ・このアンケートは、西枇杷島地区の市立幼稚園について、今後、どのようにしていくのかを検討するための参考に行うものです。
- ・なお、このアンケートは、西枇杷島地区の0歳から3歳までのお子さんをお持ちの保護者の方を対象に実施しました。
- ・アンケートの実施期間は平成21年12月から平成22年1月までです。

【経緯】

- ・清須市では、市立幼稚園が西枇杷島地区だけにあり、市全体から見ると偏在した状態になっています。
- ・また、最近の保育ニーズは急増の傾向にありますので、西枇杷島地区は西枇杷島保育園の1園のみで定員もいっぱいのため、西枇杷島地区の方は保育園に入りたくても入れない方がお見えになります。そのような方の何人かは、新川地区や清洲地区の保育園を利用いただいています。
- ・一方で、市立幼稚園は定員にまだ余裕がある状態です。
- ・そのため、市としては、市立幼稚園の保育園化や認定こども園としての利用を検討しているところです。

【調査結果】

回答者	選択肢	市立幼稚園を保育園にする	市立幼稚園をそのまま存続する	市立幼稚園を認定こども園にする	無回答	計	回収率
西枇杷島小学校区域内		25	40	64	1	130	
古城小学校区域内		12	32	16	0	60	
無回答		9	1	17	1	28	
計		46	73	97	2	218	
比率		21.1%	33.5%	44.5%	0.9%	100.0%	

送付件数 476

市立幼稚園に関するアンケート調査

